



## 答え合わせ・解説

問1	答え 4 仏	「知らぬが仏」の「仏」の部分が入ります。意味は「知らないでいれば、心穏やかでいられるということ」です。
問2	答え 2 閑	「忙中閑あり」の「閑」の部分が入ります。意味は「どんなに忙しくても、工夫次第で休む時間は作れる」です。
問3	答え 2 十	「一を聞いて十を知る」の「十」の部分が入ります。意味は「少し聞いただけで全体を理解するほど賢いこと」です。
問4	答え 4 一度悪事に手を染めたら、最後まで徹底的にやるしかない	「毒を食らわば皿まで」は「一度悪事に手を染めたら、最後まで徹底的にやるしかない」という意味です。
問5	答え 3 一	「百害あって一利なし」の「一」の部分が入ります。意味は「害ばかり多くて、少しも利益がないこと」です。
問6	答え 4 他人の仕事に忙しくて、自分のことや身内まで手が回らないこと	「紺屋の白袴」は「他人の仕事に忙しくて、自分のことや身内まで手が回らないこと」という意味です。
問7	答え 4 柿	「桃栗三年柿八年」の「柿」の部分が入ります。意味は「何事も成果が出るまでには、それ相応の時間がかかるということ」です。
問8	答え 2 好きなことに対しては熱心に取り組むので、自然と上達するものだ	「好きこそ物の上手なれ」は「好きなことに対しては熱心に取り組むので、自然と上達するものだ」という意味です。
問9	答え 2 集まる	「類を以て集まる」の続きは「集まる」です。意味は「似た者同士は自然と集まりやすい」です。
問10	答え 2 大きな組織の末端にいるより、小さな組織の長であるほうが良い	「鶏口となるも牛後となるなかれ」は「大きな組織の末端にいるより、小さな組織の長であるほうが良い」という意味です。
問11	答え 4 鬼	「鬼の目にも涙」の「鬼」の部分が入ります。意味は「冷酷な人でも、時には慈悲深い心や情けを見せることがあるということ」です。
問12	答え 1 ある人に見捨てられても、他の誰かが助けてくれるものだ	「捨てる神あれば拾う神あり」は「ある人に見捨てられても、他の誰かが助けてくれるものだ」という意味です。
問13	答え 1 襻に長し	「帯に短し襻に長し」の続きは「襻に長し」です。意味は「中途半端で、どちらの用途にも合わず役に立たないこと」です。
問14	答え 1 用心の上に用心を重ねて行動すること	「石橋を叩いて渡る」は「用心の上に用心を重ねて行動すること」という意味です。
問15	答え 2 虫	「蓼食う虫も好き好き」の「虫」の部分が入ります。意味は「人の好みはさまざまであり、他人がとやかく言うことではないこと」です。
問16	答え 2 どんな場所でも、住み慣れてしまえば居心地が良く感じられるものだ	「住めば都」は「どんな場所でも、住み慣れてしまえば居心地が良く感じられるものだ」という意味です。
問17	答え 2 餅屋	「餅は餅屋」の続きは「餅屋」です。意味は「何事もその道の専門家に任せるのが一番良いということ」です。
問18	答え 1 長	「一日の長」の続きは「長」です。意味は「少しだけ他より優れていること」です。